

*添付資料 塾プログラム（新・旧）、塾報第1号巻頭言

1. はじめに

- ・ 田村明の一生の、「前期」「横浜市時代」「法政大学時代」「後期」の「後期」に属する
- ・ 最晩年、田村明は、横浜と東京の二つの「まちづくり塾」に尽力していた

2. 現代まちづくり塾とは

- ・ 講義＋話題提供＋懇親会
- ・ 会費 500 円（初回のみ 1000 円）、一度でも出席すれば塾生
- ・ テーブルを囲む、必ず発言する、肩書なし
- ・ プログラム
- ・ 記録、塾報

3. 現代まちづくり塾の始まり

- ・ 94年5月まちづくり学会、01年3月新世紀まちづくり塾をへて、02年9月に開講（市政会館）
- ・ 3度目でようやく塾の形ができた

4. 田村さんはどういう目的で塾を始めたのか

- ・ 自身の問題整理（都市という不可知の存在）
- ・ 市民の育成
- ・ 楽しい場づくり（フラット、肩書のない集まり、20代から80代まで、）

5. 塾を通じて感じた田村さん

- ・ 有能かつ魅力的な人
- ・ 生涯を通じ休みなく活動を続けた人
- ・ 都市をこよなく愛した人
- ・ 実践家（現実的な理想主義者）
- ・ 多様なレイヤー

6. 田村さん後の現代まちづくり塾

- ・ 2010年3月から、塾生の代講により継続

7. プログラム

- ・ 「都市やまちづくりをする人がこれだけは知っておいてほしいということをもとめたもの」
- ・ 難関「第Ⅶ章」—現代まちづくり塾の価値
- ・ 『「市民の政府」論』という宿題
- ・ 「22世紀論」（人類は22世紀を迎えられるか、そのためには解決しなければならない課題がある）という宿題

8. 私はなぜ現代まちづくり塾に参加しているのか

- ・ 都市好きが「まちづくり」という課題を背負うことに
- ・ まちづくりを担う市民になるために学ぶ

9. 現代まちづくり塾は田村さんの何を引き継ぐか

- ・ 田村明の思想、田村明の精神（不可知のものである都市をよりよいものにして行く不断の努力）